

第1学年 社会科 学習指導案

日 時 平成20年11月6日(木) 5校時
学 級 1年C組 (30名)
場 所 1年C組教室
指導者 菊地 晃秀

1 単元名 歴史的分野 第3章 東アジア世界とのかかわりと社会の変動

2 単元について

(1) 教材観

12世紀後半、我が国は、政治や社会、文化の面で大きな変化が見られ、それまでの天皇・貴族による支配体制が後退し、武士の勢力が次第に広まっていった。特に応仁の乱後は、社会の変動は大きく、地方の武士が強くなるだけでなく、民衆の力も大きく成長し、一揆などを行いながら自治的なしくみも生まれてきた。また、その間、一時期不活発であった東アジアとの関わりでは、モンゴルとの緊張関係や明との交易などを通して密接な関係を持ち、琉球王国は、その東アジアのなかで独自の役割をもって活動した。一方、文化については、武士や庶民の力が伸びたことにより、新しい特色のある文化が育っている。

学習指導要領では「武士が台頭し武家政権が成立したこととその後の武家社会の展開を鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、応仁の乱後の社会的な変動を通して理解させるとともに、元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割など、その後の東アジア世界との関わりに気付かせる」ことをねらいとしている。内容の取り扱いにおいては、武家社会の特色をとらえさせ、土地制度などの細かな史実や政治機構の詳細などに深入りしないよう注意することになっている。

(2) 生徒観

これまでのテストや授業の様子から判断すると、地理的分野よりも歴史的分野に関心を持っている生徒が多く、女子よりも男子の方が意欲的で発言も多い。4月に行った新入生テストでは歴史上の大きな出来事や人物はだいたい把握できていたが、それぞれの時代の特色を掴むまでは至っていなかった。しかし、戦国時代の武将などには関心を持っている生徒もいた。

授業態度は全体的に意欲的であるが、落ち着きに欠ける生徒がいる。また、学習用具や宿題を忘れてくる生徒も多くなってきており、学習したことが定着していない生徒もいる。

小グループでの活動や話し合いは主に隣同士や生活班を利用して行ってきたが、最近は4人班での活動を多くしている。話し合いはグループによって差があり、進行役がうまく育っている班や意欲的な生徒がいる班は短時間で意見交流が図られている。一方、発表が苦手な生徒がいる班はなかなか交流が進まない時もあるので、机間指導やプリントに自分の考えをまとめてから意見交流させることもある。

(3) 指導観

この単元では、鎌倉幕府の滅亡の過程とその後の武家政治の発展について、「下剋上」という風潮をおさえながら理解させたい。そして、東アジア世界との関係が大きく変化したことや農業をはじめとする産業が大きく発達したこと、農村や都市では自治的な組織ができ、現代の生活に深く関係する部分が生まれてきたことにも着目させていきたい。また、このような歴史的な事象の扱いについては、ただ知識としてとらえるのではなく、その背景にあるものを考えさせ、グループ等での意見交流を活発に行い、学び合いの場面を広げていきたい。そのためには、意欲を高める資料の提示、導入の工夫に力を入れる必要があると考えている。

3 単元の指導目標

【社会的事象への関心・意欲・態度】

- ・鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の発展、経済の発達と社会の変化に関心を持ち、意欲的に学習をしている。
- ・モンゴルの襲来、日明貿易、琉球の国際的役割など、東アジアとのかかわりに関心を持ち、意欲的に追求できる。

【社会的な思考・判断】

- ・モンゴルの襲来や日明貿易が日本の政治や社会に与えた影響について、多面的・多角的に考察している。
- ・自治的な組織が都市や農村にできたことや農業をはじめとする産業の発達、武士や民衆の活力を背景にして生み出された新しい文化の誕生について、多面的・多角的に考察している。

【資料活用の技能・表現】

- ・鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の発展、経済の発達と社会の変化、室町文化に関する図版、史料、歴史地図などの様々な資料を活用するとともに、追求した結果をまとめたり、説明したりしている。

【社会的事象についての知識・理解】

- ・東アジア世界とのかかわりを背景に、鎌倉時代の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開を理解し、その知識を身につけている。
- ・農業をはじめとする産業が発達し、自治的な組織が都市や農村にできたことや武士や民衆の活力を背景に新しい文化が誕生した社会を理解し、その知識を身につけている。

4 単元の指導計画

東アジア世界とのかかわりと社会の変動（6時間扱い）

- ① モンゴルの襲来と日本・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- ② 南北朝の動乱と東アジアの変動・・・・・・・・・・1時間
- ③ 室町幕府と経済の発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- ④ 民衆の成長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- ⑤ 戦国大名の登場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間（本時）
- ⑥ 室町幕府の文化の広がり・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

5 本時の指導

(1) 目標

- ① 分国法の内容を考え、グループ内で意見交流することができる。（資料活用の技能・表現）
- ② 戦国大名がどのようにして領国を支配したのか理解できる。（知識・理解）

(2) 具体の評価規準

	十分満足できると判断される状況(A)	概ね満足できると判断される状況(B)	努力を要する生徒への指導の手だて
資料活用の技能・表現	分国法の具体的なねらいについて考え、発表できる。	分国法の内容を考え、グループ内で意見交流することができる。	分国法の内容を考えさせる。
知識・理解	戦国大名がどのようにして領国を支配したのか、時代背景から理解できる。	戦国大名がどのようにして領国を支配したのか理解できる。	下剋上を理解させる。

(3) 本研究との関わり

◆自分の考え、感想、気付いたこととことや求め方の話し合いの場

・分国法について考えまとめ、グループ内で発表できる。

◆考え等の交流の場

・他のグループの発表を聞き、自分の考えを深めることができる。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意事項 (◆学び合い活動 ◎評価)
導入 10分	1 既習事項の確認	・知っている戦国大名を自由に発表する。	・肖像画を見せ、誰なのか考えさせる。
	2 学習課題の把握	・資料が何か考える。	・分国法を掲示する。
戦国大名はどのようにして領国を支配したのだろうか			
展開 30分	3 戦国時代	・戦国時代とはどのような時代だったか想像する。	・自由に発表させる。
	4 分国法のねらい	・分国法を読み、そのねらいを考える。 ・グループ内で意見交流する。 ・全体で意見交流をする。	・自分で考えプリントに記入する。 ◎意欲的に考えようとしているか。 ◆グループを作り意見交流を行う。 【小グループ】 ・進まないグループを支援する。 ◎自分の考えを発表しているか。 ◆全体での交流を図りまとめる。 【全体】 ◎他の発表を聞いて自分の考えを深めているか。
	5 下剋上と社会の様子	・下剋上から、当時の社会の様子を知り、分国法が何のためにつくられたのか考える。	・下剋上の例を紹介しながら、まとめていく。
30分	6 領国支配の実態	・分国法を作る以外、どのような努力をしたか調べる。	・教科書を使って調べる。 ・武田信玄の例を紹介する。
終末 10分	7 本時のまとめ	・学習課題についてのまとめを行い、戦国大名に対する自分の感想を発表する。 ・調べてみたい戦国大名を発表する。	・ノートにまとめる。